

The image shows the exterior of a large, modern, light-colored building, identified as the Iwano Bank. The building has multiple stories with many windows and a prominent entrance area. A steam locomotive is visible in the foreground, positioned on tracks that run along the street. The sky is clear and blue. The text "伊予銀行" (Iwano Bank) is visible on the top part of the building. A vertical banner on the right side of the building reads "坊っちゃん 誕生100年" (Fukuchan 100th Anniversary).

伊予銀行 平成18年度中間決算説明会

平成18年12月8日

～ 目 次 ～

I. 伊予銀行の概要 頁

○伊予銀行のプロフィール 3

○伊予銀行の経営基盤 4

II. 平成18年度中間決算状況 頁

○平成18年度中間決算の特色 6

○損益状況 7

○18年度中間期 コア業務粗利益増減要因 8

○預貸金の状況 9

○開示不良債権の状況 10

○自己査定・要因別不良債権処理額 11

○有価証券評価益および自己資本比率の状況 12

○18年度(年間)業績予想 13

III. 2006年度中期経営計画達成へ向けた主な戦略 頁

○2006年度中期経営計画 15

○2006年度中計 数値目標達成状況 16

○2006年度中計の収益見込み 17

○金利上昇による損益影響 18

○2006年度中計の主な戦略 19

○貸出金残高+3,000億円に向けて 20

○新規融資事業所開拓「10,000先」運動の推進 21

○個人融資残高+1,500億円に向けて 22

○預金等残高+3,500億円に向けて 23

○預り資産残高+4,000億円に向けて 24

○新商品・新サービスの提供強化 25

○統合リスク管理 26

○ステークホルダーの満足度向上 27

An aerial photograph of Matsuyama City, Japan. In the foreground, several modern multi-story office buildings are visible, including a prominent white building with many windows. A river flows through the city. In the background, a large, densely forested hill rises, topped with the ruins of Matsuyama Castle. The surrounding area is hilly and green.

I. 伊予銀行の概要

本店を空撮～山頂は松山城～

伊予銀行のプロフィール

本店所在地	愛媛県松山市
創業	明治11年3月15日(第二十九国立銀行設立)
創立	昭和16年9月1日
資本金	209億円(発行済株式総数 323,775千株)
従業員数	役員 20人、職員 2,389人(臨時を除く)
拠点数	国内 150か店(出張所7を含む)、海外1か店(香港)
	13都府県に店舗ネットワークを展開 (愛媛県118か店、大分県・広島県各6か店、香川県5か店、その他15か店)
	駐在員事務所2か所(ニューヨーク、上海)
主要勘定等	預金等(預金+譲渡性預金) 4兆 1,141億円
	貸出金 3兆 525億円
	総資産 4兆 7,153億円
	純資産 3,727億円
外部格付	AA-(安定的) : 格付投資情報センター(R&I)

創立65周年

連結自己資本比率(国際統一基準)	11.89%
連結子会社数	12社
連結従業員数 職員 (臨時を除く)	2,754人

(※計数は平成18年9月末現在)

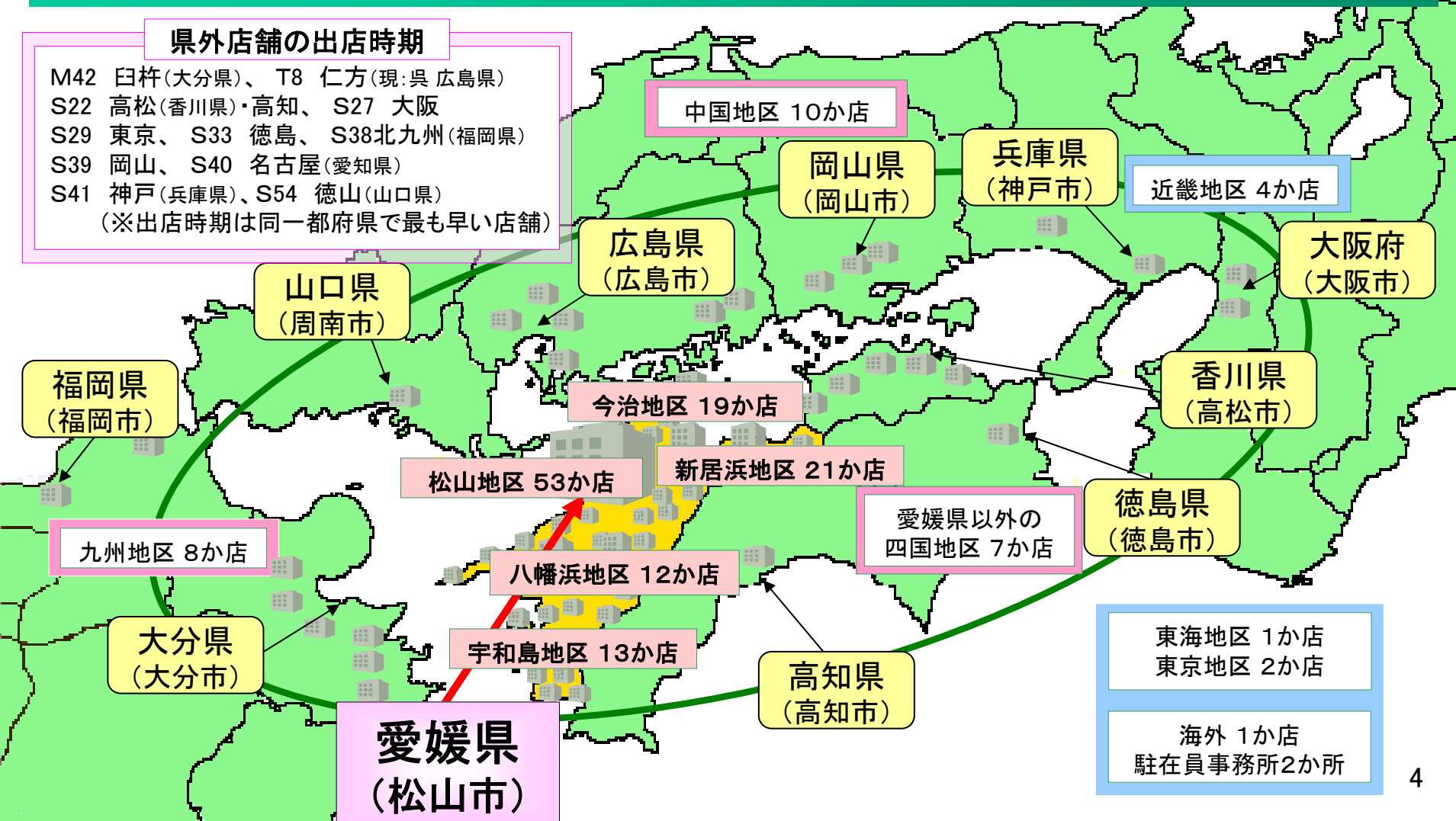
伊予銀行の経営基盤



瀬戸内圏域＋東京・近畿・名古屋に店舗配置(13都府県)
古くから瀬戸内に根ざした地銀No.1の広域店舗ネットワーク

県外店舗の出店時期

M42 臼杵(大分県)、T8 仁方(現:呉 広島県)
 S22 高松(香川県)・高知、S27 大阪
 S29 東京、S33 徳島、S38北九州(福岡県)
 S39 岡山、S40 名古屋(愛知県)
 S41 神戸(兵庫県)、S54 徳山(山口県)
 (※出店時期は同一都府県で最も早い店舗)





Ⅱ. 平成18年度中間決算状況

～松山の観光名所の一つ「萬翠荘」(ばんすいそう)～

平成18年度中間決算の特色

コア業務純益は5期連続で増加し中間期としては過去最高に

**本業の収益力
向上**

貸出金残高 3兆525億円、年間増加額 1,283億円、年間増加率 +4.4%
～平成9年3月期以降、9年連続で順調に残高増加～

預り資産残高年間1,116億円増加、年間増加率 +54.9%

信用コスト112億円(前年同期比+108億円)により最終減益

創立65周年を迎え、記念配当50銭を実施 ～年間配当7円50銭～

記念配当

不良債権比率が上昇するも、依然として高い健全性を維持

不良債権比率が3.12%に上昇 ～18年3月期比+0.63ポイント～

自己資本比率(国際統一基準・連結)は11.89%

有価証券評価益1,920億円

**依然として
高い健全性維持**

損益状況



コア業務純益は過去最高益を更新 信用コストの増加により減益

- ◇ コア業務純益 … 貸出金および有価証券運用の増強により、**中間期最高の175億円に**
- ◇ 中間純利益 … 一部大口先の業績悪化と一層厳格な自己査定の実施に伴う信用コスト増によって減益

平成18年度中間決算(単体)

(単位:百万円)

	17/9	18/9	前年同期比	増減率
業務粗利益	38,392	39,868	+ 1,476	+ 3.8%
資金利益	35,123	36,114	+ 991	
役務取引等利益	3,090	3,422	+ 332	
その他業務利益	178	331	+ 153	
(国債等債券関係損益)	(△ 248)	-	(+248)	
経費(△)	22,761	22,324	△ 437	△ 1.9%
人件費	12,371	12,003	△ 368	
物件費	8,959	8,874	△ 85	
税金	1,429	1,445	+ 16	
①一般貸倒引当金繰入額(△)	97	△ 3,803	△ 3,900	
業務純益	15,534	21,347	+ 5,813	+ 37.4%
コア業務純益(注)	15,880	17,543	+ 1,663	+ 10.5%
臨時損益	△ 281	△ 11,297	△ 11,016	
②不良債権処理額(△)	297	15,036	+ 14,739	
株式等関係損益	△ 12	3,228	+ 3,240	
その他の臨時損益	27	509	+ 482	
経常利益	15,253	10,049	△ 5,204	△ 34.1%
特別損益	859	781	△ 78	
うち減損損失	101	46	△ 55	
うち償却債権取立益	1,032	680	△ 352	
税引前中間純利益	16,112	10,830	△ 5,282	
中間純利益	10,040	6,760	△ 3,280	△ 32.7%
経常収益	44,332	51,018	+ 6,686	+ 15.1%
コア業務粗利益	38,641	39,868	+ 1,227	+ 3.2%

主な増減要因等(前年同期比)

業務粗利益 … 前年同期比+1,476百万円

- 資金利益 … 貸出金および有価証券運用の増強により増加
- 役務取引等利益 … 投資信託の販売が好調に推移したことにより増加

経費 … 前年同期比△437百万円

- ◇退職給付費用の減少等による人件費の減少
- ◇諸経費の削減に注力したことによる減少

コア業務純益 … 前年同期比+1,663百万円

5期連続の増益で中間期としては過去最高

信用コスト(①+②) … 11,233百万円(前年同期比+10,839百万円)

①一般貸倒引当金繰入額(前年同期比△3,900百万円)

38億円の戻し入れ

②不良債権処理額(前年同期比+14,739百万円)

- ◇一部大口先の業績悪化に伴い前倒しで引当を実施
- ◇一層厳格な自己査定を実施

記念配当50銭を実施

- ◇創立65周年を記念して記念配当を実施
- ◇年間配当は7円50銭に

(注)コア業務純益…債券関係損益を除く 一般貸倒引当金繰入前「業務純益」

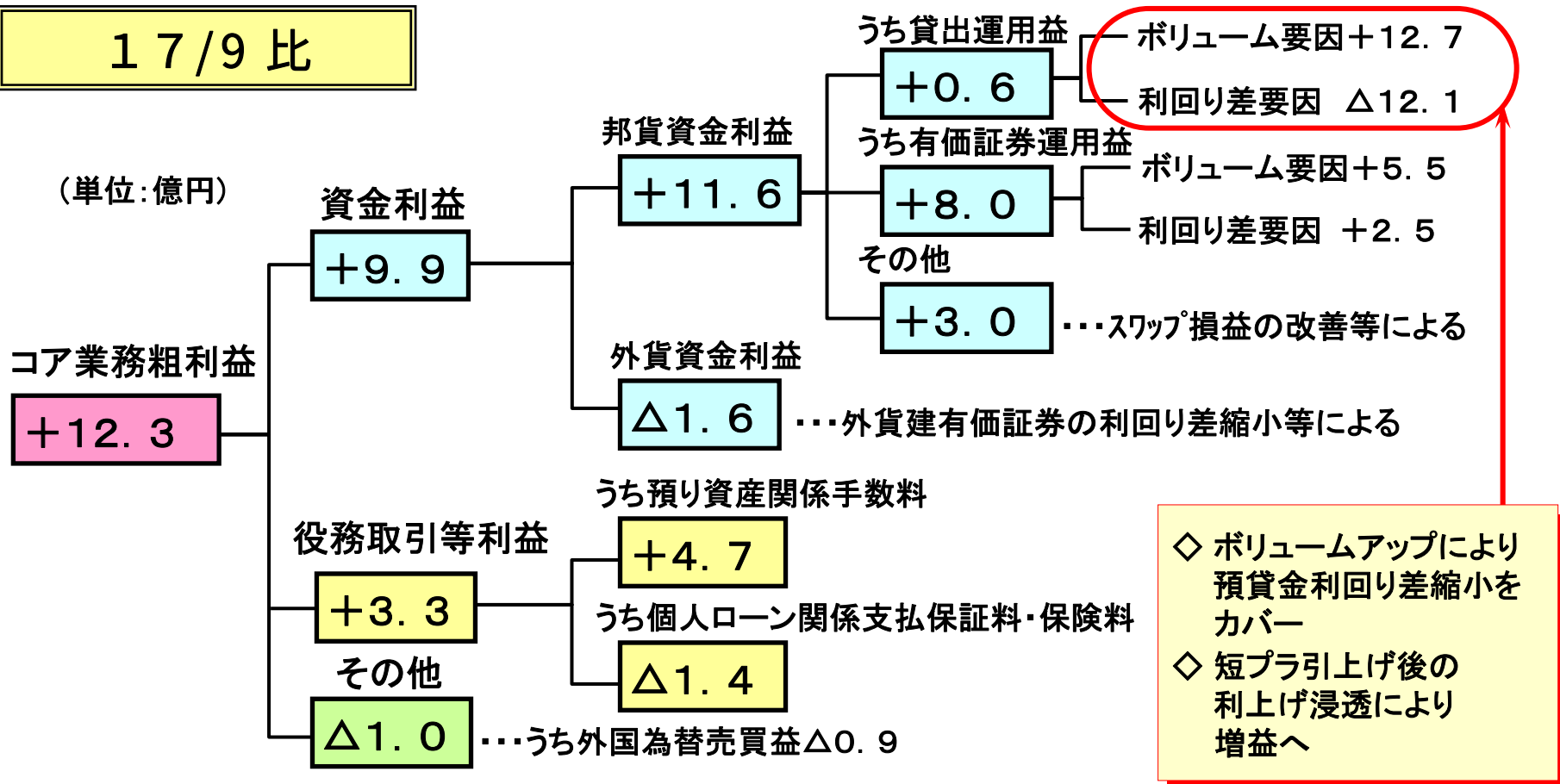
1 8 年度中間期 コア業務粗利益増減要因



伊予銀行

- ◇ 邦貨資金利益 … 貸出・有価証券の運用増加および株式・投資信託の配当率向上により増益
- ◇ 外貨資金利益 … 調達利回り上昇による外貨建有価証券利回り差縮小により減益
- ◇ 役務取引等利益 … 投資信託窓販等の増強により増加

1 7 / 9 比



- ◇ ボリュームアップにより預貸金利回り差縮小をカバー
- ◇ 短プラ引上げ後の利上げ浸透により増益へ

預貸金の状況



預金等残高 … 18/3期比微減ながら、預り資産との合計では順調に増加

貸出金残高 … 住宅ローンを中心とした個人融資や「新規開拓10,000先運動」により増加

19/3期に預金等残高・貸出金残高ともに年度ベース10年連続残高増加を目指す

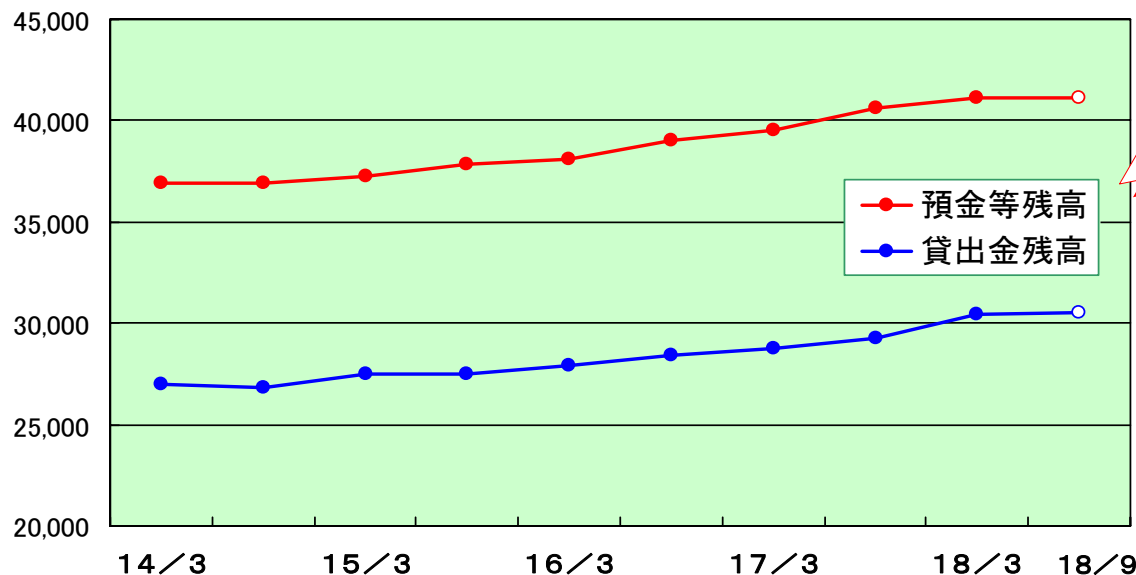
＜預貸金残高推移(単体)＞

(単位: 億円)

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3		18/9		
					17/9			前年同月末比	前年比増加率
預金等残高	36,885	37,256	38,066	39,545	40,657	41,154	41,141	+ 484	+ 1.2%
うち個人預金	25,231	25,744	25,980	26,532	26,676	26,668	26,852	+ 176	+ 0.7%
預金等＋預り資産	37,149	37,713	38,972	41,148	42,690	43,833	44,290	+ 1,600	+ 3.7%
貸出金残高	26,979	27,488	27,896	28,782	29,242	30,421	30,525	+ 1,283	+ 4.4%
うち個人融資	5,948	6,449	6,937	7,300	7,492	7,771	7,999	+ 507	+ 6.8%

(億円)

＜預貸金残高推移＞



◆ 9/3期～18/3期 ◆

年度ベースでは預貸金ともに
9年連続残高増加中

19/3期には**10年連続**
残高増加を目指す

開示不良債権の状況



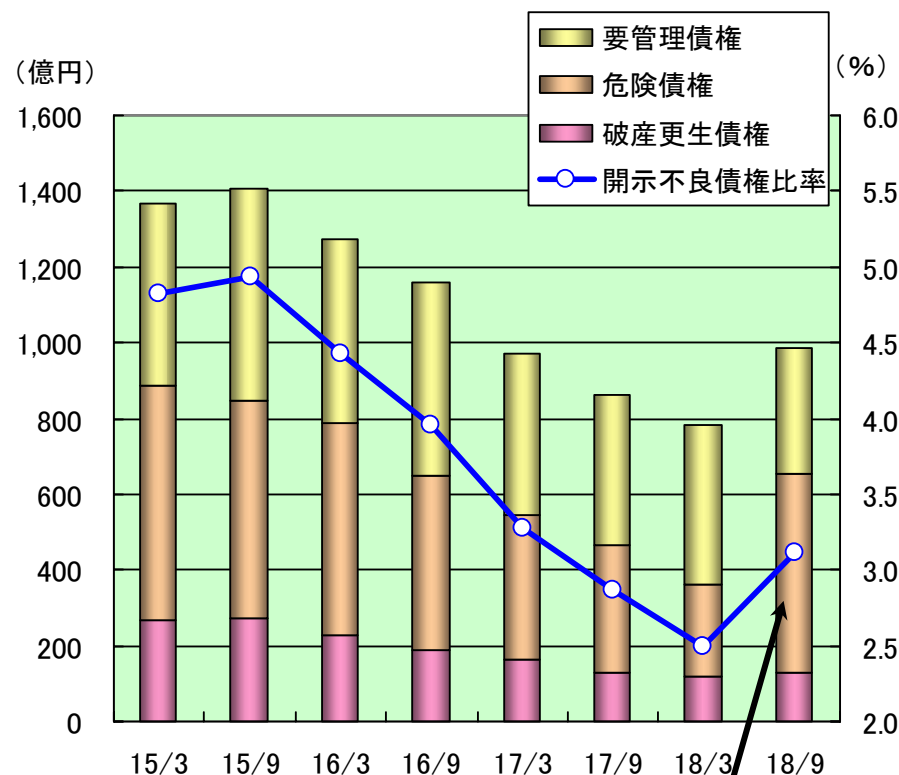
開示不良債権比率 … 一部大口先の業績悪化と一層厳格な自己査定を実施した結果、18/3比0.63ポイント上昇して3.12%に上昇

＜金融再生法開示基準による不良債権＞

(億円)

	17/9	18/3	18/9	18/3比	17/9比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	131	119	131	12	0
危険債権	333	241	522	281	189
要管理債権	399	422	332	△ 90	△ 67
開示不良債権合計(A)	863	782	987	205	124
正常債権	29,228	30,561	30,575	+ 14	+ 1,347
合 計	30,092	31,343	31,563	+ 220	+ 1,471
開示不良債権比率	2.87%	2.49%	3.12%	0.63%	0.25%
保全額(B)	758	658	806	+ 148	+ 48
貸倒引当金	312	258	325	+ 67	+ 13
担保保証等	446	399	480	+ 81	+ 34
保全率(B)／(A)	87.78%	84.08%	81.65%	△ 2.43%	△ 6.13%

＜開示債権額・比率推移＞



開示不良債権比率 3.12%

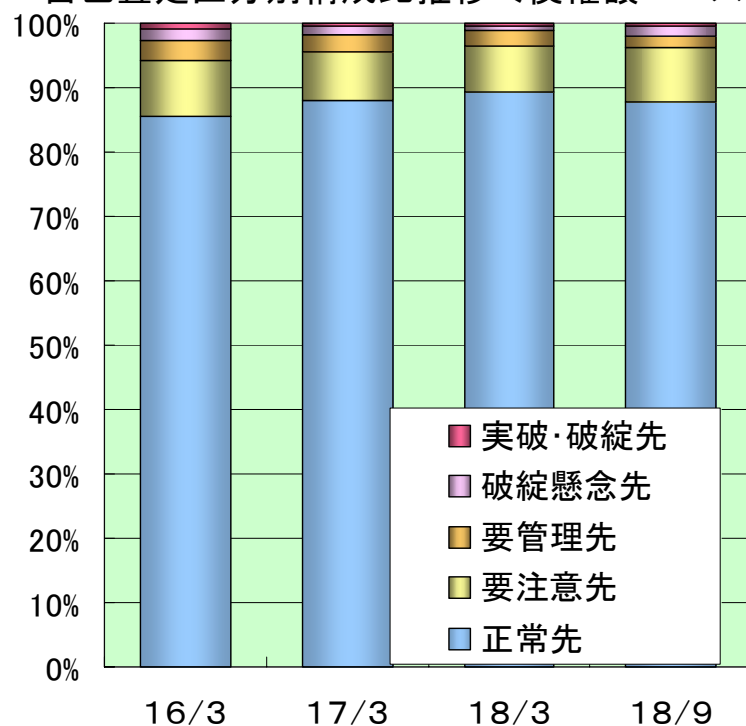
自己査定・要因別不良債権処理額



信用コストは一時的に増加したものの、今後は安定化へ

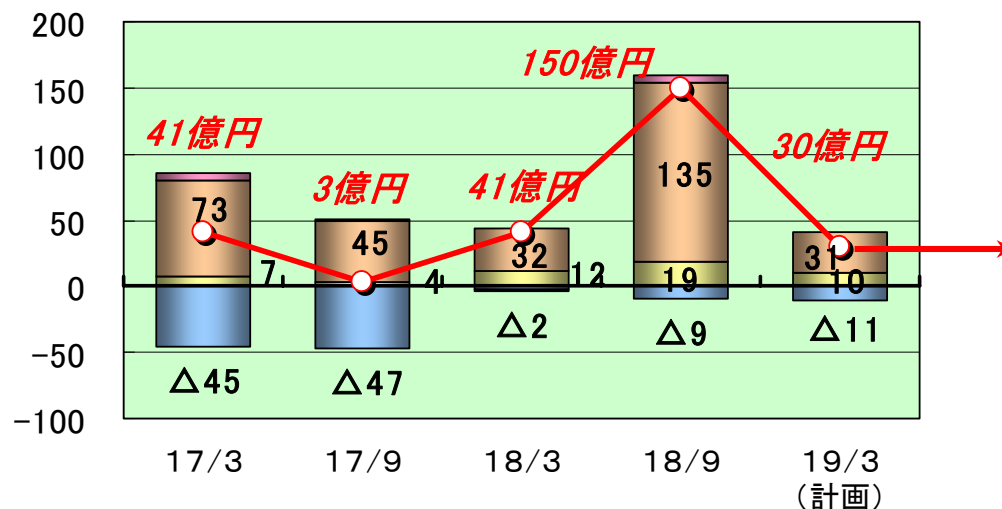
◇ 18/9月期は信用コストが増加し、要注意先以下の比率も上昇したものの、今後の信用コストは中計策定当初の計画水準で推移する見込み

自己査定区分別構成比推移＜債権額ベース＞



処理額
(億円)

要因別不良債権処理額推移＜半期ベース＞



- 償却・売却等
- ランクアップ・回収による取崩
- ランクダウン等による引当増加
- 倒産による引当増加
- 不良債権処理額合計

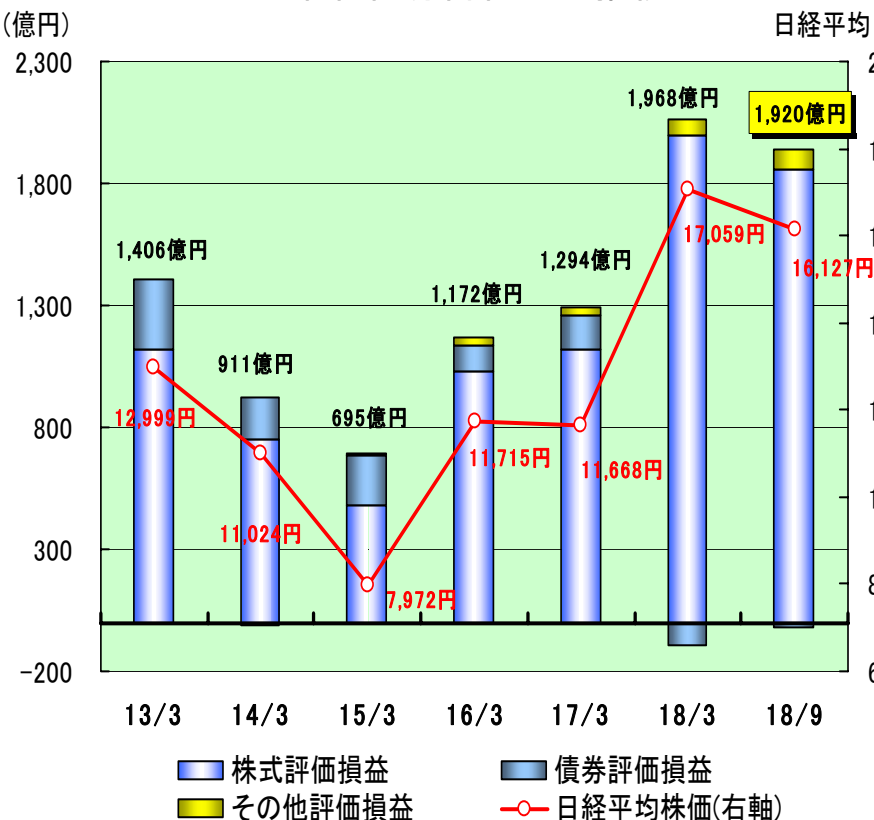
有価証券評価益および自己資本比率の状況



健全性指標は依然として高水準を維持

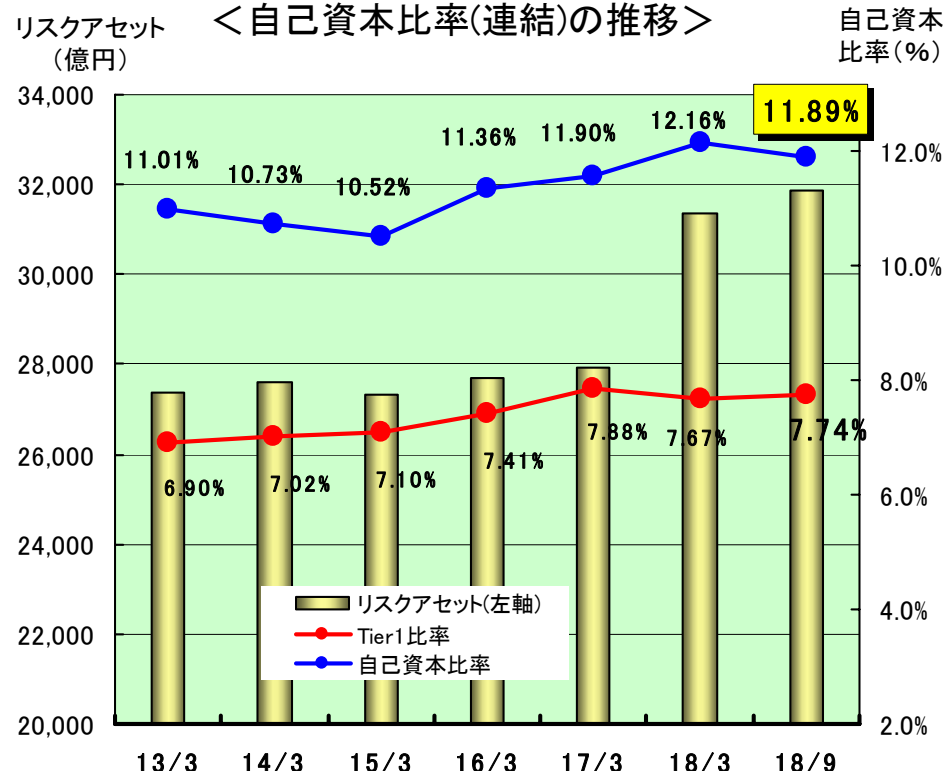
- ◇ 有価証券評価益は株価下落等により18/3比減少するも **1,920億円と高水準**
- ◇ 連結ベース自己資本比率(国際統一基準)についても **11.89%と高水準を維持**
- ◇ R&Iによる外部格付は「**AA-**」(安定的)

＜有価証券評価益の推移＞



リスクアセット
(億円)

＜自己資本比率(連結)の推移＞



18年度（年間）業績予想



年間業績は、経常利益260億円、当期純利益170億円を見込む

（単位：百万円）

単体	18/3実績	19/3予想			19/3 当初計画	
			増減	増減率		当初計画比
経常収益	91,175	100,500	+ 9,325	+ 10.2%	94,000	+ 6,500
経常費用	61,196	74,500	+ 13,304	+ 21.7%	63,000	+ 11,500
経常利益	29,979	26,000	△ 3,979	△ 13.3%	31,000	△ 5,000
税引前当期純利益	31,470	27,000	△ 4,470	△ 14.2%	32,500	△ 5,500
当期純利益	19,361	17,000	△ 2,361	△ 12.2%	20,000	△ 3,000
業務純益	33,583	40,000	+ 6,417	+ 19.1%	36,500	+ 3,500
コア業務純益	33,674	35,500	+ 1,826	+ 5.4%	34,500	+ 1,000

連結	18/3実績	19/3予想			19/3 当初計画	
			増減	増減率		当初計画比
経常収益	106,823	116,500	+ 9,677	+ 9.1%	110,000	+ 6,500
経常利益	32,159	28,200	△ 3,959	△ 12.3%	33,500	△ 5,300
当期純利益	19,484	17,100	△ 2,384	△ 12.2%	20,100	△ 3,000



Ⅲ. 2006年度中期経営計画 達成へ向けた主な戦略

2006年度中期経営計画



伊予銀行

～ 企業価値向上への挑戦 ～

伊予銀行 企業理念

[存在意義]

潤いと活力ある地域の明日を創る

[経営姿勢]

最適のサービスで信頼に応える

[行動規範]

感謝の心でベストをつくす

目指す銀行像

親切で頼りがいあるベストパートナーバンク

【戦略カテゴリー】 収益力の強化

- ◇ 営業態勢の強化
- ◇ 法人預貸金取引の強化
- ◇ 個人預貸金取引の強化
- ◇ 積極的な有価証券運用
- ◇ 非金利収益の増強
- ◇ 新商品・新サービスの提供強化

経営姿勢

- ◇ 「地域志向」「お客さま志向」の経営
- ◇ 健全性確保と収益力強化による経営体力向上
- ◇ 絶え間なき変革への挑戦

【戦略カテゴリー】

経営管理・財務の変革

- ◇ コンプライアンス態勢の強化
- ◇ 内部管理態勢の高度化
- ◇ リスクテイク能力のさらなる向上
- ◇ ステークホルダーの満足度向上

【戦略カテゴリー】

人事・組織の変革

- ◇ 本部組織、店舗・チャネルの再構築
- ◇ 積極的な人材の育成・登用
- ◇ グループ経営の推進
- ◇ 新しいビジネスモデルへの積極的な対応

企業価値の
さらなる向上

【戦略カテゴリー】

コスト最適化への変革

- ◇ 信用コストの安定化
- ◇ 経費の効率的運用

【戦略カテゴリー】

ITの戦略的活用

- ◇ IT化による利便性・安全性の向上
- ◇ 業務効率化の推進

2006年度中計 数値目標達成状況

< 計画期間 平成18年4月～平成21年3月 >



信用コストの増加が大きな要因となって、中期経営計画はスロースタート
ただし、コア業務純益やOHR比率は当初計画以上に推移するなど **収益力は着実に向上**

基本目標

管理項目

		18/3	18/9	19/3計画	21/3目標
基本目標	コア業務粗利益	783億円	398億円	794億円	830億円以上
	コア業務純益	336億円	175億円	355億円	390億円以上
	当期純利益	193億円	67億円	170億円	220億円以上
	ROE比率	7.92%	5.27%	6.40%	7.5%以上
	総資産残高	4兆7,089億円	4兆7,153億円	4兆7,800億円以上	5兆円以上
管理項目	新規融資事業所開拓先数	(2年間で) 6,600先	1,666先	3,500先	10,000先以上
	OHR比率	57.0%	55.9%	55.3%	55%以下
	不良債権比率	2.49%	3.12%	2.97%	2%以下
	連結自己資本比率	12.16%	11.89%	—	13%以上

(注) ROE比率は株主資本から株式等の含み益を除いたベース

2006年度中計の収益見込み

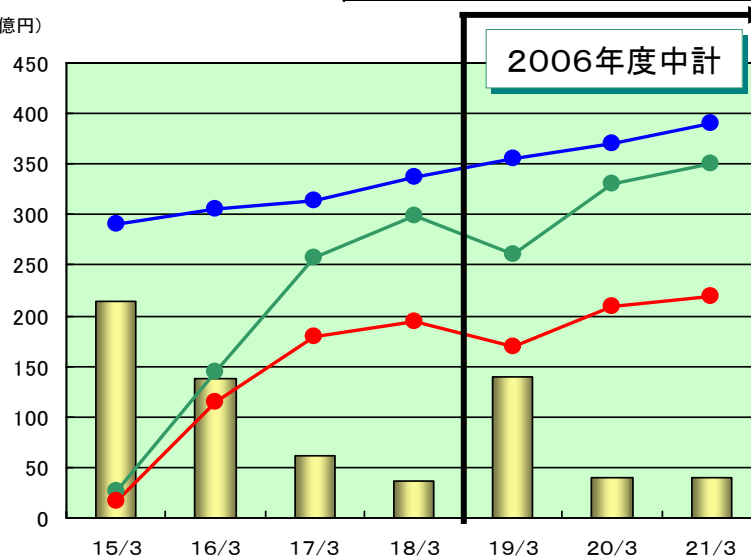


信用コストの一時的な増加により、19/3期の経常利益・当期純利益は当初計画を下回るものの、コア業務純益は好調に推移しており、20/3期・21/3期は中計の目標利益を達成できる見込み

(単位: 億円)

	18/3 実績	2006年度中計期間						
		19/3 見込み			19/3 当初計画	20/3 計画	21/3 計画	18/3比
			18/3比	当初計画比				
コア業務粗利益	783	794	+10	+4	790	810	830	+47
うち資金利益	710	720	+10	+10	710	720	733	+23
うち役務等利益	66	69	+4	△ 4	73	79	86	+20
経 費	447	439	△ 8	△ 6	445	440	440	△ 7
うち人件費	245	237	△ 8	△ 3	240	235	235	△ 10
コア業務純益	337	355	+18	+10	345	370	390	+53
信用コスト	36	140	+104	+95	45	40	40	+4
与信費用比率	0.12%	0.46%	+0.34%	+0.31%	0.15%	0.13%	0.13%	+0.01%
経常利益	300	260	△ 40	△ 50	310	330	350	+50
当期純利益	194	170	△ 24	△ 30	200	210	220	+26

(億円)



(注) 計画には今後の金利上昇を織り込んでいない

● コア業務純益
● 経常利益
● 当期純利益

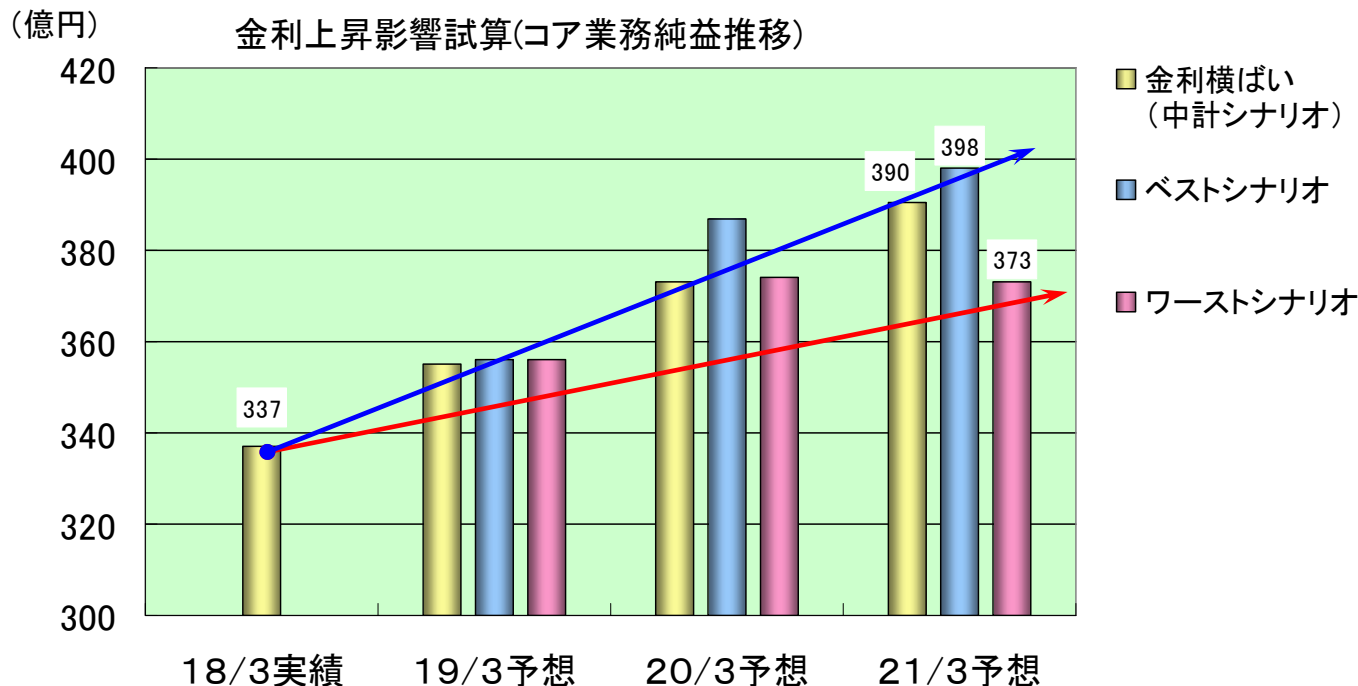
■ 信用コスト

金利上昇による損益影響



今後の金利上昇局面における損益は、流動性預金比率と短プラ引上げペースに大きな影響を受ける

◇ 21/3期のコア業務純益は、中計計画390億円に対し、今後の金利上昇影響により、ベストシナリオ398億円からワーストシナリオ373億円の範囲で変動する可能性がある



●金利上昇影響試算の前提

	短期金利(O/N)		スワップ金利		短プラ		普通預金金利	大口定期(1年)	流動性比率		備考
		18/9比	(10年)	18/9比		18/9比				18/9比	
金利横ばい (中計シナリオ)	0.25%	—	1.9%	—	2.125%	—	0.10%	0.30%	45%	△1%	
ベストシナリオ	1.25%	+1.00%	2.3%	+0.4%	3.000%	+0.875%	0.25%	1.20%	41%	△5%	○短プラの引上げペースは市場金利上昇ペースの9割 ○流動性比率は現状比△5%
ワーストシナリオ	1.25%	+1.00%	2.3%	+0.4%	2.825%	+0.70%	0.25%	1.20%	36%	△10%	○短プラの引上げペースは市場金利上昇ペースの7割 ○流動性比率は現状比△10%

2006年度中計の主な戦略

～ 企業価値のさらなる向上を目指して～



キーワードは 愛媛県を含む瀬戸内圏域での営業拡大
～ 古くから広域展開することによって構築した広範な経営基盤が強み～

貸出金残高増加+3,000億円 ～ 90%を瀬戸内圏域で増強～

「新規融資事業所開拓10,000先運動」 ～ リスク分散と収益性向上～

個人融資で+1,500億円増加 ～ 住宅ローンを中心とした増強～

預金等残高+3,500億円 ～ 安定した調達基盤の構築へ～

預り資産残高+4,000億円 ～ 非金利収益の増強へ～

新商品・新サービスの提供 ～ 顧客から選ばれる金融サービスの提供～

貸出金残高増加＋3,000億円に向けて



伊予銀行

～ 90%を瀬戸内圏域で増強 ～

★ 広域店舗ネットワークにより 安定した運用基盤を構築
瀬戸内圏域を中心にリスクテイクし、ボリュームアップを目指す

< 貸出金平残
増加推移 >

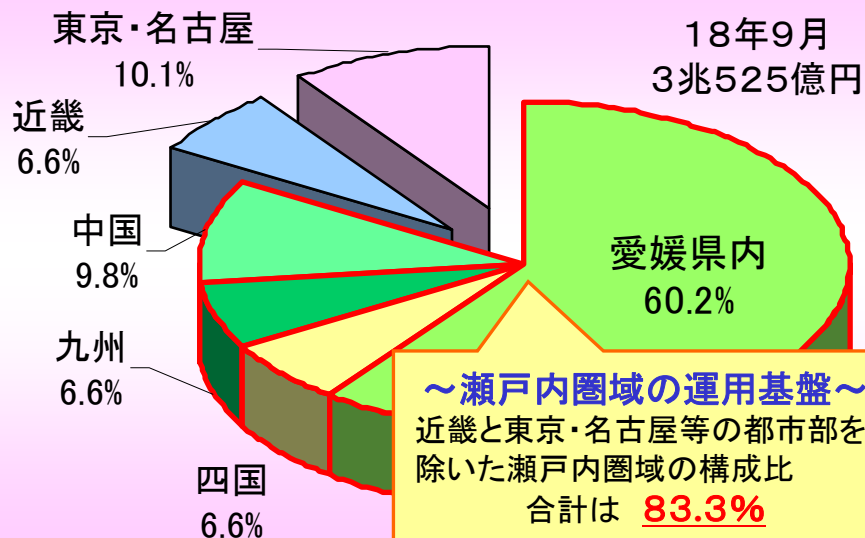
	中計 増加目標	18/上 実績	18/下 計画	18年度 年間計画
総貸出金(国内)	3,000	566	700	1,266
一般貸出金	3,000	605	730	1,335
うち瀬戸内圏域	2,700	489	660	1,149
うち愛媛県内	1,300	222	360	582
地公体向貸出金	0	△39	△30	△69

(単位: 億円)

19/3期 年間平残予想	16/上 増加実績	17/上 増加実績	18/上 増加実績
30,253	36	81	566
29,130	△7	14	605
24,188	△113	△41	489
17,070	△184	△133	222
1,123	42	67	△39

(注)「19/3期年間平残予想」を除いて計数は半期平残ベース

< 貸出金残高地域別構成比率 >



～ 上期は好調なスタート ～

- ◇ 18年上期の平残増加実績は
従来実績と比較しても好調に推移
- ◇ 増加実績566億円のうち489億円
(構成比86.4%)を瀬戸内圏域で増強
- ◇ 愛媛県内上期事業性貸出金が
11年ぶりに増加に転じる

～ 瀬戸内圏域へ注力 ～

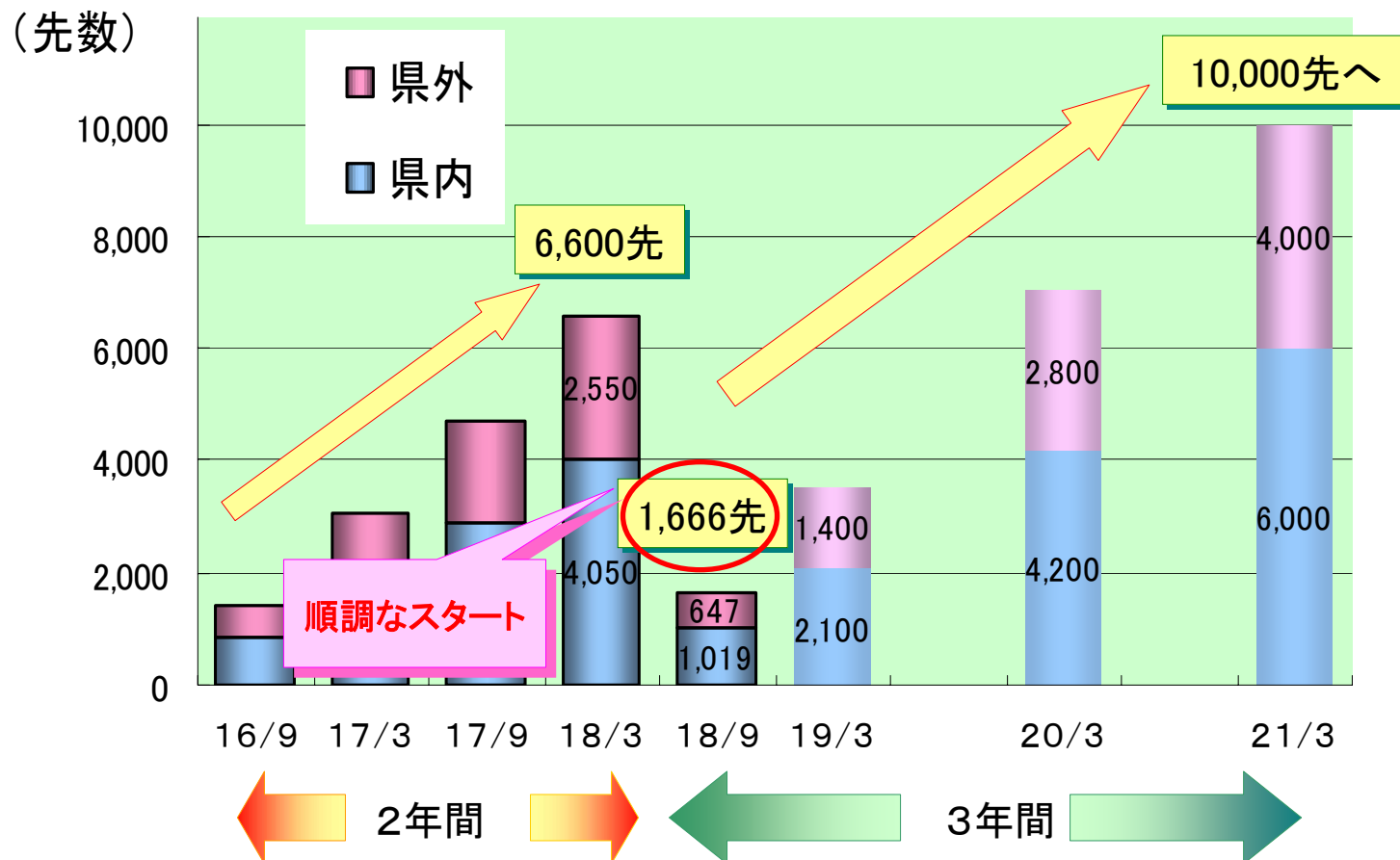
多様な産業構造をもつ瀬戸内圏域を
中心とした貸出金増強策により、
リスク分散を図りつつ収益を増強

新規融資事業所開拓「10,000先」運動の推進



16/4 ~ 18/3 の2年間「5,000先運動」を展開し、**6,600先**を開拓
21/3 までの3年間で「10,000先」開拓に向けて順調なスタート

「新規融資事業所開拓先数」

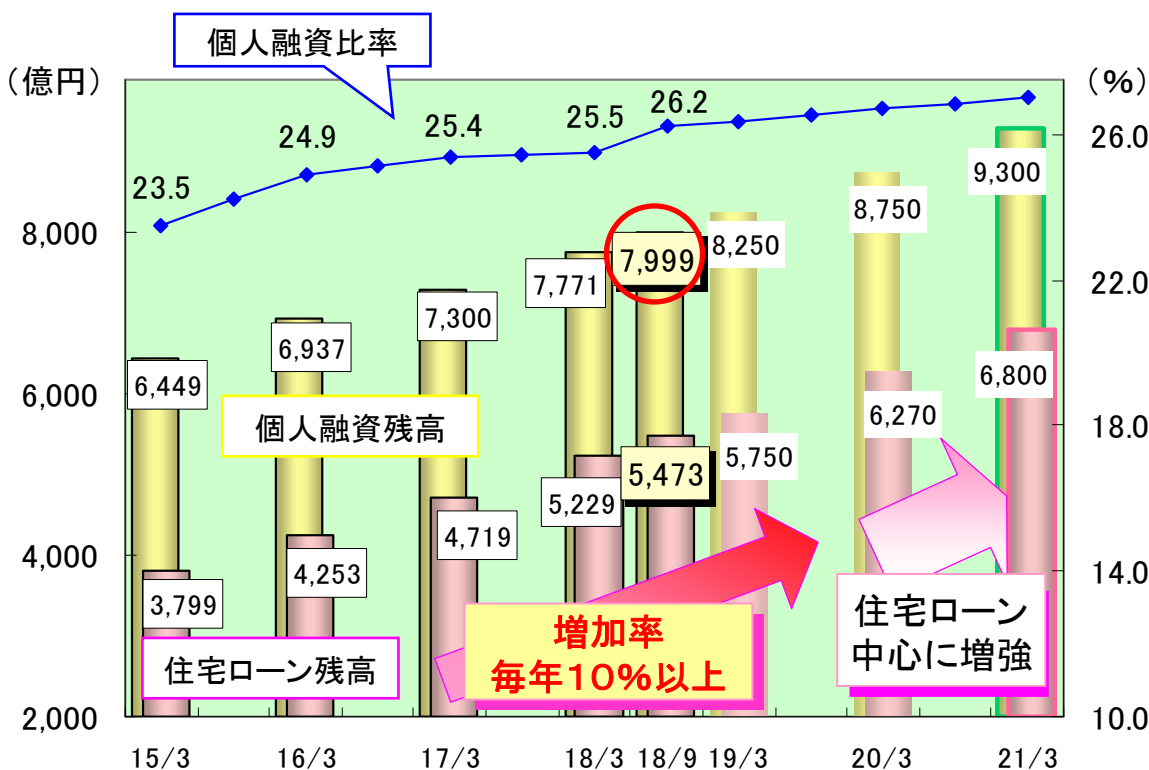


個人融資残高 + 1,500億円に向けて



住宅ローンは年間10%以上の増加率を維持しており、好調に推移

＜個人融資・住宅ローン残高、個人融資比率推移＞



住宅ローンの推進

商品

「まるごと住宅ローンワイド」を中心とした推進

- ◇ 登記・引越等諸費用も「まるごと」カバーする商品設計
- ◇ リフォームニーズに対応した「まるごとリフォームローン」を発売

クイックレスポンス

- ◇ 事前審査申込制度、翌日回答などのスピード対応

営業態勢

- ◇ 広域店舗網を活用したニーズ収集
- ◇ 「ローンプラザ」を愛媛県内7か所に設置済

新規案件への取組強化

預金等残高 + 3,500 億円に向けて



伊予銀行



愛媛県内(約8割)を中心に **安定した調達基盤を構築**

地銀高水準の信用力(外部格付:R&Iで「AA-」)を背景とした調達力

(単位:億円)

< 預金等平残
増加推移 >

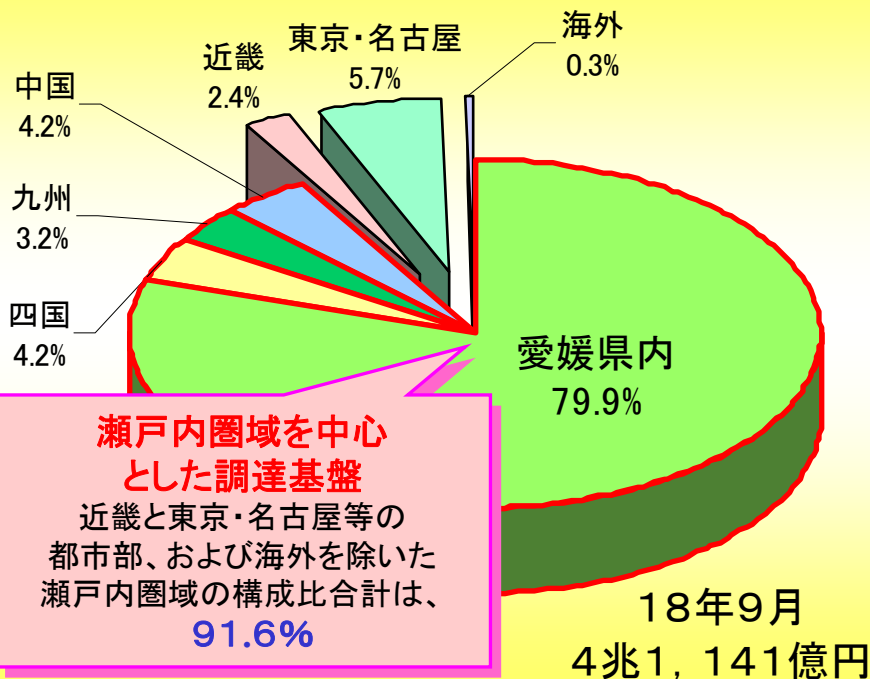
	中計 増加目標	18/上 実績	18/下 計画	18年度 年間計画
総預金等(含むNCD)	3,500	533	550	1,083
個人預金等(含むNCD)	1,500	106	250	356
一般法人預金等(含むNCD)	2,350	46	750	796
公金・金融機関預金等(含むNCD)	△350	380	△450	△70
総預金等+預り資産	7,500	1,003	1,120	2,123

19/3期 年間平残予想
40,288
26,990
11,486
1,811
43,721

16/上 増加実績	17/上 増加実績	18/上 増加実績
737	1,175	533
179	232	106
200	357	46
358	586	380
1,111	1,605	1,003

(注)「19/3期年間平残予想」を除いて計数は半期平残ベース

< 預金等残高 地域別構成比率 >



戦略商品の投入

- ◇ 「坊っちゃん100年記念定期預金」
- ◇ 65周年記念預金の発売
- 個人向け定期預金「いよの夢」
- 法人向け定期積金「65th記念定期積金」

ターゲット別預金アプローチの強化

- ◇ 法人預金へのアプローチ強化
- ◇ 団塊世代へのアプローチ・商品開発

高い信用力

- ◇ R&Iによる外部格付「AA-」

ニューマネーの獲得を志向

預り資産残高 + 4,000億円に向けて



預り資産残高は3,149億円に拡大、年間増加率は54.9%

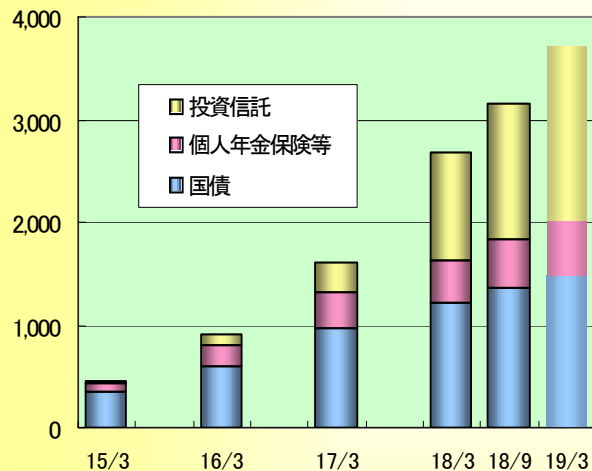
総預金に対する預り資産の比率は8.1%と、増加余地は大きい(地銀平均10.8%:18/3期)

<預り資産残高推移>

(単位: 億円)

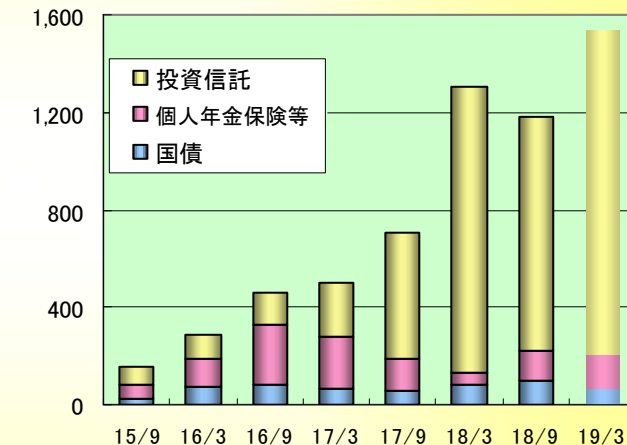
	15/3	16/3	17/3	18/3		18/9			19/3 計画
				17/9			17/9比	18/3比	
預り資産合計	457	906	1,603	2,033	2,679	3,149	+1,116	+470	3,719
投資信託	34	106	281	569	1,051	1,322	+753	+271	1,702
個人年金保険等	75	199	363	400	414	457	+57	+43	527
国債	348	601	959	1,065	1,214	1,370	+305	+156	1,490

<預り資産残高推移>



<預り資産収益推移>

(百万円)



<預り資産収益推移> (半期ベース)

(単位: 百万円)

	15/9	16/3	16/9	17/3	17/9	18/3	18/9	17/9比	18/3比	19/3 計画
預り資産合計	159	288	457	505	707	1,301	1,181	+474	△120	1,531
投資信託	74	97	132	227	522	1,174	961	+439	△213	1,326
個人年金保険等	61	118	247	211	128	47	123	△5	+76	140
国債	25	72	78	66	57	81	97	+41	+17	65

投信・年金保険商品の拡充

- ◇ 多様なニーズにお応えする商品
- 投信 合計33ファンド
- 年金保険 合計12種類
- 団塊世代対応、保険販売の全面解禁を見据え、新商品を追加投入予定

預り資産の営業態勢強化

- ◇ 「ご相談専用ブース」を愛媛県内91か店に設置
- ◇ 投信販売支援ツールを導入予定
- ◇ 預り資産を含めたリテール商品販売強化のため、「チャレンジAAAプラス(アセット・アクティブ・アクション)」運動を展開
- ◇ お客さま投資セミナーの開催
- ◇ 「金融商品アドバイザー」全店260名体制へ(今後年間50名増員取組中)
- ◇ 行員向け研修の強化を実施

「いよぎん幸せパック」※の販売

- ◇ キャンペーンを展開
- 金利上乘せ(18年3~5月)
- 「坊っちゃん100年記念」(6~9月)

※定期預金と投資信託・外貨定期預金を組み合わせた商品

新商品・新サービスの提供強化



伊予銀行



ソリューション営業の積極的推進とお客さまに支持されるサービス提供

ビジネスマッチング業務

- ◇ 広域店舗網を活用した情報の受発信
- ◇ 16年4月～18年10月の登録件数累計3,052件、成約件数累計 340件(うち直近6ヶ月で98件成約)
- ◇ 18年4月から有料での取組みを本格化

M&A業務

- ◇ 本部専門スタッフ2名を配置
- ◇ お客さま向けセミナーを適宜開催
- ◇ 18年10月末までの情報収集件数(売情報64件、買情報188件)

新サービス提供

地銀で初！

- ◆ 自行内振込手数料の一部無料化を実施(18年7月)
- ◆ 外為インターネットバンキング取扱開始(18年11月)
- ◆ ICキャッシュカードの導入を予定(19年2月)
- ◆ 「コンビニATM」サービスの開始を予定(19年夏)

創業・新事業支援業務

- ◇ 「いよベンチャーファンド1号投資事業有限責任組合」
- ◇ 17年12月「いよベンチャーファンド2号投資事業有限責任組合」を追加で設立(1号と合算で10億円)(1号と2号の総投資実績は18年10月で18件500百万円)

医療・介護支援業務

- ◇ 専門スタッフ2名による本部渉外実施
- ◇ 医療コンサルティング会社との連携による機能強化
- ◇ 医療・介護報酬セミナーの開催(延べ約500人参加)

その他

- 確定拠出年金業務
- 遺言信託・遺産整理業務
- 私募債発行支援業務

各種のニーズに対応できる体制を構築

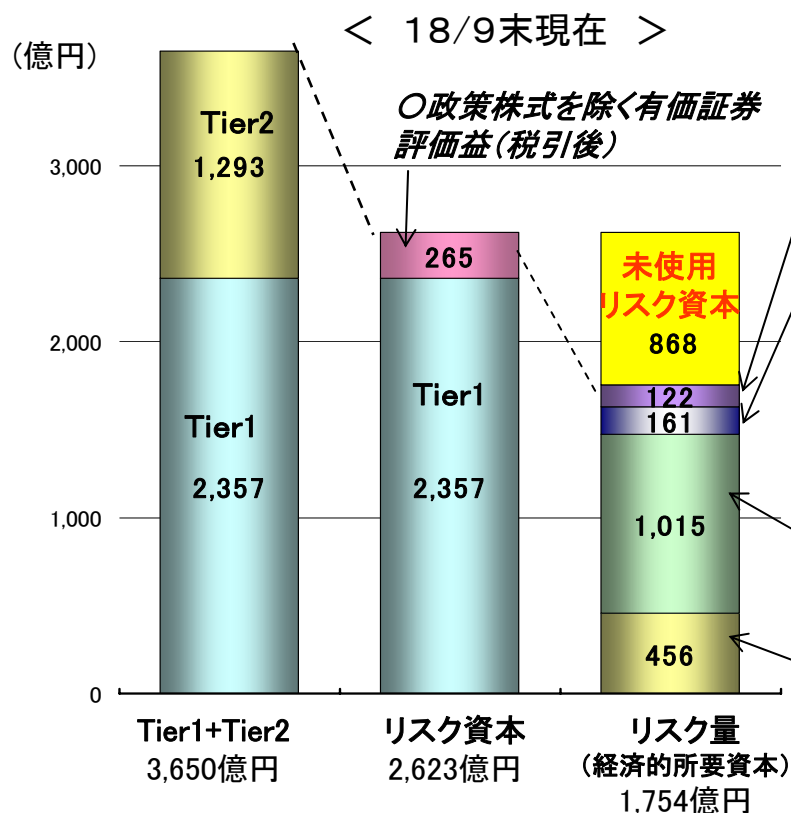
四国の金融機関で初！

統合リスク管理



未使用リスク資本の有効活用を志向

- ◇ リスクリターン分析をもとに、瀬戸内圏（愛媛県を含む）にフォーカスをあてた中期経営計画を策定
- ◇ 内部格付制度を基本軸として「規制上の所要資本」と「内部管理上の所要資本」を一体的に運営することによって、統合リスク管理の実効性を高め、未使用リスク資本を効果的に活用するため、バーゼルⅡにおいて基礎的内部格付手法の採用を志向



○オペレーショナルリスク

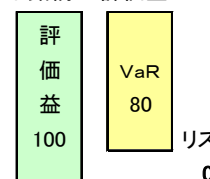
- ・バーゼルⅡ基礎的手法により算出

○政策株式リスク

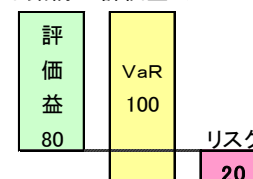
- ・前提…保有期間1年、信頼水準99.9%
- ・個別銘柄毎のVaRとリスク資本未算入評価損益をネットしてリスク量を算出（注）

（注）政策株式のリスク算出方法例

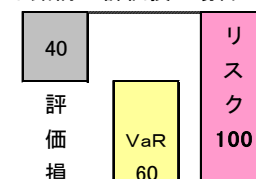
●銘柄A：評価益 $\geq$ VaR



●銘柄B：評価益 $<$ VaR



●銘柄C：評価損の場合



○市場リスク[金利リスク・為替リスク・株式リスク（政策株式を除く）]

- ・前提…保有期間1年、信頼水準99.9%、異なるリスク間の相関考慮

○信用リスク（貸出および事業債等）

- ・前提…保有期間1年、信頼水準99.9%

ステークホルダーの満足度向上



伊予銀行



「CSR推進委員会」による本業に基づいた社会貢献活動を実施
お客さま満足度の向上を目指し、全行的なCS向上運動を展開

地域貢献活動

- ◇ 「地域文化活動助成制度」による支援
- ◇ (財)「伊予銀行社会福祉基金」による支援
- ◇ 「IRCニュー・リーダー・セミナー」開催による経営者育成支援
- ◇ 男子テニス部・女子ソフトボール部の活動
- ◇ 公益信託「池田育英会トラスト」「社会福祉奨学基金」の取扱い
- ◇ 公益信託「愛媛県災害ボランティアファンド」の受託
- ◇ 小説「坊っちゃん」100年記念事業を展開
 - ☆ 道後温泉宿泊券が当たる懸賞付商品
 - 「坊っちゃん100年記念定期預金」の発売
 - 「いよぎん幸せパック」キャンペーンの実施
 - ☆ 「全日本女子硬式野球選手権大会」に協賛
- ◇ Jリーグ「愛媛FC」の地元開催試合に「伊予銀行サンクスデー」を設定
- ◇ 愛媛県内主要店舗に「AED(自動体外式除細動器)」を設置
- ◇ 平成29年開催予定の愛媛国体に協賛
- ◇ 各種地域行事への参加 他

産学官連携

- ◇ (財)えひめ産業振興財団との連携
- ◇ 愛媛大学との「連携協力協定」
- ◇ 「地域ブランド」形成支援を目的とした「中小企業基盤整備機構」との業務提携
- ◇ 異業種交流会「フロンティア企業クラブ」への参加
- ◇ 「四国産業クラスターサポート会議」への参加 他

商品提供

- ◇ 環境問題に対応する「環境私募債」「環境クリーン資金」「エコカーローン」等の商品ラインナップ
- ◇ 高齢化社会に対応する「介護サポートローン」の発売
- ◇ 少子化問題に対応する「子宝ローン」 他

環境

- ◇ 頒布品のリサイクル活動を促進
- ◇ ハイブリッドカー等の低公害車の導入拡大
- ◇ 再生紙の利用率アップへの取組み 他

CS向上

「Thanks, Heart & Smile運動」～「感謝の心でベストをつくす」全行運動～を展開



＜本件に関する照会先＞

伊予銀行 総合企画部 八木

TEL:089-941-1141

FAX:089-946-9104

E-Mail: iyo010@iyobank.co.jp

本資料における、将来の業績につきましては、発表時において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としております。
将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。